

教育委員会
生涯学習推進部

社会教育課
青少年育成課
図書館

組織の目的と役割

生涯学習推進部 社会教育課

組織の目的(どのような価値を提供するのか)

市民それぞれの多種多様なニーズに対応するためハード面やソフト面での環境を提供する。

価値を提供する上で、解決すべき課題

社会教育関連施設はいずれも老朽化が進み、修繕箇所が増加している。利用者の安全面や施設の適切な運営のためには、これらを早急に対処するべきである。

組織が担う施策とその役割

施策の柱	施策名	役割	役割の内容
スポーツ活動の促進	スポーツ活動の充実	主体的に	体育協会やスポーツ少年団の事務局として各種競技の大会調整を行う。地域スポーツ振興のため、スポーツ推進委員がスポーツに関する指導、助言を行う。
		協働して	体育協会、体育文化協会、指定管理者と連携して、場所の確保や、機材及び資材の提供を行い、スポーツ機会の充実を図る。
		支援的に	体育協会に対して、補助金交付を行っている。また、スポーツ推進委員に報酬を支出し、地域などにおけるスポーツの普及・振興を支援する。
	スポーツ・文化施設の充実	主体的に	施設の効率的な運営を目指す。
		協働して	指定管理者と連携を図り、施設及び設備の営繕に努める。
		支援的に	施設の運営に対して、指導・助言を行う。
文化活動の促進	文化活動の充実	主体的に	各種団体による自主的な活動を促すため、市民参画のしやすい組織整備を図る。
		協働して	社会教育関係団体と連携して、学ぶ・参加するきっかけや、発表の機会を提供する。
		支援的に	各種文化活動への提案、助言を行う。文化祭に補助金を支出する。
文化財保護	文化財保護の充実	主体的に	文化財を適切に保護するための調査研究・資料整理を行う。市民にわかりやすく文化財を公開する。
		協働して	ボランティア解説員と連携して、展示の充実、小学校の体験学習の受け入れを行う。市民と協働して貴重な文化財を保護する。
		支援的に	文化財保護のため、重要文化財所有者へ補助金を交付する。

組織の資源と活用

生涯学習推進部 社会教育課

組織として持っている主な資源

人・ネットワーク	技術・知識	情報	もの	計画
体育協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、PTA 協議会、家庭教育学級、家庭教育学級友の会、文化連盟、女性団体連絡協議会、摂南大学、日本語教室学びの場、文化財審査委員、文化財保護委員、文化財愛護推進委員、ボランティア(歴史解説・和わた)、学校支援地域本部	危険物取扱者、博物館学芸員資格	スポーツ及び社会体育施設全般に関すること、文化全般に関すること、女性団体に関すること、生涯学習に関すること、文化財ネットワーク	青年の家、教育文化会館、いわふね自然の森スポーツ・文化センター、総合体育施設、星田西体育施設	

市民・地域団体・市民団体・事業者・事業者団体等によるまちづくりの取組みに関する情報

各種スポーツ団体による大会等を実施。スポーツ推進委員による地域スポーツの普及・振興。女性団体による花壇整備やフリーマーケットの開催。文化連盟による交野市文化祭の開催や運営。日本語教室の開催。歴史解説ボランティアによる史跡案内。和わたボランティアによる和棉栽培。各中学校区の地域コミュニティによる学校支援活動。

資源を踏まえ行動指針から課題と考えること、その解決策

行動指針	課題	解決策
多様性ある	興味のある市民が限定的である。	出前講座などの積極活用やイベントPRなどで、参加者の裾野を広げる。
顔が見える	文化、文化財活動には特殊な面があり、周囲からわかりにくい部分がある。	PR活動を積極的に行い、広く市民に呼びかける。
協働する	事業が多岐にわたるため、幅広い分野に即応できる専門的な知識が要求されている。	経験による人材育成と資格者の確保に努める。
挑戦する	活動の内容がマンネリ化してしまっている。	定期的な事業の開催において、内容の見直しを図り活性化に努める。
創造する	行政だけの仕事となりがちで、交野の独自性が発揮されていない。	市民の多様化するニーズに対応した市民参加型のイベント企画を行う。
持続する	それぞれの団体が高齢化し、リーダーの継承が難しい。	若年層の発掘、リーダーの育成、または養成講座などを行う。

課の資源を有効に活用するために取り組むこと

情報の視点 (収集、提供)	各種団体の活動内容を把握する。 また課が把握している情報については、市広報等を通じて市民に周知する。
学びの視点 (育成、機会)	いつでも、どこでも、誰もが充実した人生を送るため、魅力ある講座の開催や学べる拠点づくりを行う。
広域的視点 (他との連携)	大阪府や近隣市町村の担当部局と連絡を密にし、情報を共有する。また市の他部局と連携したイベントの開催を行う。
場づくり	スポーツや文化においては、実行委員会等を組織し協力・連携して事業にあたる。また日頃の活動の成果を発表する場を提供するとともに、施設の修繕を含めた環境整備に努める。

施策名		スポーツ活動の充実						
部課等名	生涯学習推進部 社会教育課							
かたのサイズ”をめざす像 (主要3つ)	スポーツを通じて、仲間意識を育み感動を分かち合っている。 趣味や生きがいを持ち、日々楽しく心が充実している。 いろいろな世代の人同士が交流し、楽しく刺激あっている。							
現状と課題 (上記を踏まえ)	体育協会 26 団体をはじめ多数の団体が様々に連携を取りながら、自主的な活動(各種大会等)を実施している。スポーツ推進委員は、市内授産所(障がい者施設)での運動指導も実施している。							
施策の目的 (提供する価値)	市民が生涯にわたって、体力や年齢に応じてスポーツに親しみ、健康で明るいライフスタイルが実現できるよう、生涯スポーツの推進、競技スポーツの振興を図るとともに、スポーツ指導者の養成及び体育施設の整備充実を目的とする。							
施策の目標 (3年後の状態)	地域に密着した施設において、スポーツの場を提供する機会を拡大する。 市民のニーズに応じた多様なスポーツが実施できるよう、効果的に団体、グループ活動を支援する。 市民がスポーツを通じてコミュニティづくりを行うことを支援する。 市民ボランティアの養成、研修、相談機能を充実する。							
財源見込み	国の負担 (0 千円) 大阪府の負担 (0 千円)							
事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25 評価	アウトプット指標	H25 実績	H27 目標	H27 予算額 H26 予算額
1 関係団体との連携(生涯スポーツ)	体育協会や市民団体と連携し、各種大会等を実施	直補	選択	B	体育協会加盟団体数	26 団体	26 団体	390 千円 390 千円
2 学校体育施設の開放事業	市内小・中学校の体育館及びグラウンド等を開放	直	選択	B	体育館・グラウンド利用者数	207,524 人	208,000 人	1,732 千円 1,969 千円
3 スポーツ指導者等の養成	スポーツ推進委員等を対象としたスキルアップ研修を実施	直	選択	B	講座の開催、研修会の参加回数	12 回	12 回	1,077 千円 1,225 千円
4 市民スポーツデーの開催	毎年、体育の日を含む2日間に市内各所で実施	直補	選択	B	参加者数	2,483 人	3,000 人	1,033 千円 1,045 千円
5 スポーツ活動の支援	地区総合体育大会の開催	直	選択	B	参加種目数	10 種目	10 種目	1,236 千円 987 千円

市民スポーツデー



スポーツ推進委員活動



施策名		スポーツ・文化施設の充実						
部課等名	生涯学習推進部 社会教育課							
“かたのサイズ”をめざす像 (主要3つ)	いつでも身近なところで、学びやスポーツ活動等の体験ができる。 趣味や生きがいを持ち、日々楽しく心が充実している。 いろいろな世代の人同士が交流し、楽しく刺激しあっている。							
現状と課題 (上記を踏まえ)	各生涯学習施設(学校施設を含む)が、概ね経年劣化等により補修が頻繁に発生している。 今後は、計画的に修繕等を行い、利用者の安全を確保する必要がある。							
施策の目的 (提供する価値)	指定管理者等による各施設の安全で効率的な維持・管理とともに、利用者のニーズの把握とニーズにあった自主事業の向上に努め、利用の促進を目的とする。							
施策の目標 (3年後の状態)	施設を管理している様々な主体と、場の提供のあり方、具体的な運営について協議を行い、協力して魅力ある生涯学習の場づくりの促進を図る。							
財源見込み	国の負担 (0 千円)				大阪府の負担(0 千円)			
事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25 評価	アウトプット 指 標	H25 実績	H27 目標	H27 予算額 H26 予算額
1 星田西体育施設の管理運営	施設の適切な管理運営	指	選択	A	利用者数 自主事業	15,736 人 5 件	16,000 人	8,488 千円 8,387 千円
2 総合体育施設の管理運営	施設の適切な管理運営	指	選択	A	利用者数 自主事業	401,664 人 13 件	410,000 人	93,115 千円 194,594 千円
3 星の里いわふねの管理運営	施設の適切な管理運営	指	選択	A	利用者数 自主事業	83,131 人 10 件	84,000 人	33,467 千円 33,763 千円
4 青年の家の管理運営	施設の適切な管理運営	指	選択	A	利用者数 自主事業	125,420 人 5 件	130,000 人	59,545 千円 61,221 千円

青年の家



総合体育施設



施策名		文化活動の充実							
部課等名	生涯学習推進部 社会教育課								
“かたのサイズ” をめざす像 (主要3つ)	趣味や生きがいをもち日々楽しく心が充実する。 いつでも身近なところで学びや活動、体験ができる。 いろいろな世代の人同士が交流し、楽しく刺激しあう。								
現状と課題 (上記を踏まえ)	市民の文化活動から家庭教育まで幅広い活動を実施している。現在、自主自立をめざし、実施主体者を教育委員会から指定管理者に順次移していく途中である。								
施策の目的 (提供する価値)	市民のニーズに応えられるよう各種文化教室や行事の開催など、生涯学習の機会と場を提供し、市民一人ひとりが生涯を通じて心身ともに健康で豊かな生活を過ごすことができよう文化活動の促進に努める。								
施策の目標 (3年後の状態)	各種団体による文化活動の自主的な運営								
財源見込み	国の負担 (0 千円)				大阪府の負担(974 千円)				
事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25 評価	アウトプット 指 標	H25 実績	H27 目標	H27 予算額 H26 予算額	
1	関係団体との連携強化 (社会教育関連)	文化・社会教育団体による運営	直補	選択	B	文化連盟団体数 KL会員数 PTA 協議会会員 世帯数	59 団体 145 人 6,640 人	60 団体 200 人 6,700 人	1,005 千円 984 千円
2	文化活動促進・発表の場の提供	文化団体との協働	直	選択	B	文化祭参加数	120 団体	125 団体	1,811 千円 1,800 千円
3	生涯学習機会の充実	府・大学による運営	直	選択	B	府民ネット パソコン教室	54 人 126 人	70 人 130 人	93 千円 104 千円
4	家庭教育の充実	ボランティアによる運営	直	選択	B	家庭教育学級参加者数 家庭教育学級友の会参加者数	97 人 177 人	100 人 200 人	120 千円 75 千円
5	日本語教室「学びの場」の開催	ボランティアによる運営	直	選択	A	学びの場参加者 延べ人数 交流会参加者数	102 人 12 人	150 人 15 人	440 千円 217 千円
6	学校支援地域本部事業	ボランティアによる学校支援	補	選択	B	活動ボランティア数 延べ人数	33,923 人	35,000 人	1,799 千円 2,000 千円

施策名		文化財保護の充実							
部課等名		生涯学習推進部 社会教育課							
“かたのサイズ” をめざす像 (主要3つ)		歴史や文化財に触れて、まちの魅力を再確認している いつでも身近なところで学びや活動、体験ができる まちをいろいろな角度から学び、体験することができる							
現状と課題 (上記を踏まえ)		多くの市民が文化財の価値を十分に認識するまでにはいたっていない。 開発行為等により、貴重な文化財が破壊される可能性がある。							
施策の目的 (提供する価値)		我々の祖先が築き、今まで連綿と守ってきた文化遺産や伝統文化を次世代に継承していくために、専門的な見地から適切な保存と活用を図り、市民の理解と愛護意識を高めるとともに、ボランティアなどとの協働のもと、文化財保護活動を推進する。							
施策の目標 (3年後の状態)		多くの市民が“かたの”の文化財の価値を認識し、“かたの”に住み続けることを誇りと思っている。 “かたの”の文化財について身近なところで学ぶことができる。私部城跡の国史跡化。 貴重な文化財が、市民全体により保護されている。							
財源見込み		国の負担 (500 千円) 大阪府の負担 (0 千円)							
事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25評価	アウトプット指標	H25実績	H27目標	H27 予算額 H26 予算額	
1	文化財保存活動	文化財の保護と市民に親しまれる歴史・文化環境を目指す	直	選択	B	体験講座・出前講座・一般公開等の開催	13回	20回	4,037千円 4,462千円
2	文化財の普及啓発	歴史民俗資料展示室公開や小学校への出前講座の開催	直	選択	B	企画展回数 見学者数	6回 5,065人	6回 5,100人	2,673千円 2,619千円
3	文化遺産の適切な維持保全	文化財の維持保全のため所有者等に対する補助	補	選択	B	補助金交付数	2件	2件	360千円 420千円
4	埋蔵文化財発掘調査の実施	埋蔵文化財包蔵地内外での発掘調査や区画整理事業に伴う試掘調査を行う。 私部城跡の調査報告書を発刊して市民に周知する	直委	選択	B	埋蔵文化財届出受理 事前確認発掘調査	159件 26件	—	8,739千円 31,515千円

組織の目的と役割

生涯学習推進部 青少年育成課

組織の目的(どのような価値を提供するのか)

未来を担う青少年に、安全かつ安心して活動できる場を提供し、興味・関心の幅を広げ、夢や目標に向かって取り組める環境を整える。

価値を提供する上で、解決すべき課題

安全・安心な居場所づくりとして、行政や家庭、地域がより一層協力体制をとることが必要。

組織が担う施策とその役割

施策の柱	施策名	役割	役割の内容
青少年の健全な育成	青少年の健全な育成	主体的に	青少年が地域社会や異年齢の人々と交流し、ふれあう機会を提供する。
		協働して	子ども会等の青少年関係団体と連携して、青少年の社会性、興味・関心を育む事業の充実を図る。
		支援的に	青少年の主体的な取組を支援する。
	放課後児童会の運営	主体的に	児童にとって、安全・安心な居場所づくりを行い、保護者の就労を助ける。
		協働して	家庭・学校とともに児童の健全育成を図る。
		支援的に	保護者が安心して働ける環境を整える。

組織の資源と活用

生涯学習推進部 青少年育成課

組織として持っている主な資源

人・ネットワーク	技術・知識	情報	もの	計画
青少年指導員、子ども会育成連絡協議会、子どもの安全見まもり隊、こども 110 番の家、青少年音楽団体、発明クラブ、子どもプラン実行委員会、放課後児童会運営委員会	合唱 吹奏楽 チアリーディング	各種関係団体活動に関すること	ふれあい館 第1児童センター 野外活動センター 放課後児童会	

市民・地域団体・市民団体・事業者・事業者団体等によるまちづくりの取組みに関する情報

青少年指導員会では、各区で見回り、中高生への声かけ、交流会主催などを実施している。
 子ども会は、スポーツ・文化事業や指導者・リーダー養成事業等を実施している。
 青少年音楽団体は、少年少女合唱団、ジュニア吹奏楽団、チアリーディングクラブの3団が活動している。
 発明クラブは、アイデアを作品にして展示会を実施している。
 子どもプランは、宿泊体験や福祉体験等様々な体験事業を実施している。

資源を踏まえ行動指針から課題と考えること、その解決策

行動指針	課題	解決策
多様性ある	青少年の生活環境の違いや価値観の違いへの対応	より多くの青少年が充実感を得られるよう、意見や希望を引き出す。
顔が見える	関係団体の役員以外との連携	事業等で積極的にコミュニケーションを図り、良好な関係を築く。
協働する	各団体の自立	事務局と各団体との関係を見直し、自立を促す。
挑戦する	多種多様なニーズへの対応	情報収集して、可能な限り新しい事も試みる。
創造する	事業内容の定例化	事業を見直し、大学や市民団体と連携し新たな活動を試みる。
持続する	各団体の構成員の高齢化	次世代の人材を発掘し、後継者を育成していく。

課の資源を有効に活用するために取り組むこと

情報の視点 (収集、提供)	より多くの青少年が様々な事を体験できるよう情報を収集し、事業を行う。
学びの視点 (育成、機会)	各種の体験活動や集団生活を通じて、創造性や協調性を育み、主体的に活動できるよう育成する。
広域的視点 (他との連携)	指導者の資質向上のため、府主催の講習会などにも積極的に参加を促す。 大学や市民団体と連携し、行政にはない技術や知識を事業に取り入れる。
場づくり	子どもたちがより一層安全・安心に過ごすことができる居場所づくりを目指す。

施策名		青少年の健全な育成							
部課等名	生涯学習推進部 青少年育成課								
“かたのサイズ”をめざす像 (主要3つ)	いろいろな世代の人同士が交流し、楽しく刺激し合っている まちなかに元気な子どもたちの笑顔があふれている 地域や学校、家庭が協力して、子どもの健やかな成長を支えている								
現状と課題 (上記を踏まえ)	青少年を取り巻く環境は複雑かつ多様化しており、より一層行政、家庭及び地域の連携が必要である。								
施策の目的 (提供する価値)	次代を担う青少年が、同年代、異年代の人々とふれあい、社会の中で様々な経験を積み上げ、人格を形成している。 様々な立場の大人の見守り、支援により、青少年がのびのびと個性を育てている。 青少年が、様々な体験を行う機会が提供され、それぞれの興味・関心の幅を広げ、夢や目標をもっている。								
施策の目標 (3年後の状態)	様々な体験を通じて、自身で導き出した夢や目標に向かっている。 青少年が地域等に見守られながら、健やかな生活を送っている。 青少年が主体的に様々な活動を展開する。								
財源見込み	国の負担 (357 千円)				大阪府の負担 (357 千円)				
事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25評価	アウトプット指標	H25実績	H27目標	H27予算額 H26予算額	
1 成人式	成人式の開催	直	選択	A	参加率	76.3%	70%以上	979 千円 1,043 千円	
2 青少年活動の充実	青少年に各種体験の機会提供	直補	選択	A	参加者数 ①青少年音楽団体 ②発明クラブ ③子どもプラン ④中学生理科セミナー	①173人 ②33人 ③54人 ④34人	参加者数の維持・増員	6,042 千円 5,803 千円	
3 放課後子ども教室推進事業	子どもの居場所づくり	直	選択	B	参加者数 ①フリースペース ②学び舎Kids	①9,100人 ②6,585人	10,000人以上	2,446 千円 2,446 千円	
4 子どもの安全見守り事業	子どもの安全確保	直	選択	B	①「こども110番の家」旗設置協力者数 ②子どもの安全見まもり隊 ③青色防犯パトロール	①1,885ヶ所 ②517人 ③729回	①2,000ヶ所以上 ②500人以上 ③700回以上	1,000 千円 85 千円	
5 相談・指導体制の充実	青少年に関する情報交換及び体制の充実	直補	選択	B	事業・活動回数 ①青少年指導員会 ②子ども会	①45回 ②44回	①40回以上 ②40回以上	1,804 千円 2,101 千円	
6 市民ふれあい館事業	文化活動や青少年健全育成活動の場の提供	直	選択	C・D	設置目的に沿った利用実績	49,321人	20,000人以上	6,760 千円 5,476 千円	
7 交野市立第1児童センター管理運営	施設の適切な管理運営	指	選択	A	利用者数 自主事業参加者数	21,785人 61人	20,000人以上 自主事業継続	6,898 千円 6,899 千円	
8 野外活動センター管理運営	活用に向けての施設の維持管理	直	選択	D	日帰り利用数 宿泊利用数 施設整備等	0人 0人 休止中のため	施設整備 2回以上 月1回の パトロール	487 千円 477 千円	

施策名

放課後児童会の運営

部課等名	生涯学習推進部 青少年育成課							
“かたのサイズ”をめざす像 (主要3つ)	安心して子どもを生み育てることができる いつでも身近なところで学びや活動、体験ができる 働くことと、家族や人生などとのバランスを大切にしている							
現状と課題 (上記を踏まえ)	子ども・子育て支援新制度により基準条例を制定し、5年間の経過期間中(～H31年度)に、児童一人当たりの面積基準など、基準を満たすことができるよう環境整備を進める。							
施策の目的 (提供する価値)	保護者が就労等により昼間家庭にいない児童(1～6年生)に対し、児童の安全を確保し、異学年との集団生活を通じて生活指導を行い児童の健全育成を助長する。							
施策の目標 (3年後の状態)	待機児童の解消とともに、条例で定める基準を満たした運営ができており、児童が安全で安心して過ごせる居場所づくりとともに保護者にとっても安心して働くことのできる環境づくりができてい							
財源見込み	国の負担 (33,650 千円)				大阪府の負担 (33,650 千円)			
事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25 評価	アウトプット指標	H25 実績	H27 目標	H27 予算額 H26 予算額
1 放課後児童会	保護者が労働等により昼間家庭にいない児童への適切な遊びや生活の場の提供	直	選択	B	利用者数	12 児童会 550 人	できる限り待機児童が解消できる施設環境づくり	134,448 千円 102,546 千円

放課後児童会の月曜日から金曜日までの実施場所

児童会	実施場所	住所	電話番号	定員
交野 児童会	交野小学校内	私部 1-54-1	892-0830	80 名
交野 児童会分室	交野小学校内	私部 1-54-1	810-2221	40 名
星田 児童会	星田児童会	星田 1-49-11	891-0096	40 名
郡津 児童会	郡津小学校内	郡津 4-13-1	891-4404	50 名
郡津 児童会分室	郡津児童会分室	私部 4-11-8	810-2045	40 名
岩船 児童会	岩船小学校内	森北 1-25-1	893-4602	80 名
倉治 児童会	倉治小学校内	倉治 1-15-1	892-6100	80 名
妙見坂 児童会	妙見坂小学校内	妙見坂 7-20-1	893-1401	80 名
長宝寺 児童会	長宝寺小学校内	郡津 1-43-1	892-6201	80 名
旭 児童会	旭小学校内	星田 4-18-1	893-6336	80 名
藤が尾 児童会	藤が尾小学校内	星田北 2-45-1	893-0240	80 名
私市 児童会	私市小学校	私市 9-5-10	893-4601	80 名

組織の目的と役割

生涯学習推進部 図書館

組織の目的(どのような価値を提供するのか)

幼児から高齢者までさまざまな年代の市民が、本とふれあうことによって、心豊かな時間を持ち、必要な情報を収集できる環境を整える。

価値を提供する上で、解決すべき課題

より多くの市民が図書館(室)を利用できるよう、インターネットや移動図書館等を活用して効率的、効果的な運営をする。

組織が担う施策とその役割

施策の柱	施策名	役割	役割の内容
図書館活動の推進	図書館活動の充実	主体的に	市民の求める資料を提供することにより、市民の教養・趣味を育むとともに、知的好奇心に応える。
		協働して	学校や関連機関、ボランティア等と連携し、魅力的な図書館づくりを目指す。
		支援的に	市民や市民団体が読書活動やボランティア活動を活発に行うことができる環境を整える。

組織の資源と活用

生涯学習推進部 図書館

組織として持っている主な資源

人・ネットワーク	技術・知識	情報	もの	計画
ボランティアグループ、地域家庭文庫(6団体)、交野市図書館協議会(学校教育・社会教育・家庭教育各関係者及び学識経験者)	図書館運営、図書館サービスに関すること	図書館資料に関すること 読書活動推進に関すること	倉治図書館、青年の家図書室、星田コミュニティーセンター図書室、第1児童センター(幾野)図書室、移動図書館	

市民・地域団体・市民団体・事業者・事業者団体等によるまちづくりの取組みに関する情報

小学校のPTAやボランティアグループにより、小学校等で読み聞かせが行われている。
地域家庭文庫は、各地域において子どもたちによりよい読書環境づくりに取り組んでいる。

資源を踏まえ行動指針から課題と考えること、その解決策

行動指針	課題	解決策
多様性ある	市民にはそれぞれ多岐にわたる興味や問題意識がある。	多種多様な資料を幅広く収集し、提供する。
顔が見える	図書館を身近に感じてもらう。	図書館内外の事業において図書館サービスをPRする。
協働する	ボランティアとの協働を進める必要がある。	ボランティアと情報交換を行うとともに、ボランティア活動を支援する。
挑戦する	新しい形の図書館サービスを試みる。	インターネットによる図書館サービスを充実させる。
創造する	移動図書館を含め、各図書館施設を充分活用する必要がある。	効率的かつ効果的な図書館運営を行う。
持続する	図書館サービスの維持・充実のために、業務量が年々増加し、すべてに対応することが困難な状況にある。	職員の能力・資質の向上に努め、組織の活性化や業務精査により図書館サービスの維持・充実を図る。

課の資源を有効に活用するために取り組むこと

情報の視点(収集、提供)	より多くの市民が図書館(室)を利用できるよう多種多様な資料を幅広く収集し、提供できるよう努める。
学びの視点(育成、機会)	図書館の利用状況や利用者からの読書相談などを基に、市民の興味や問題意識に対応し、様々な要望に適切に応えるよう努めるとともに、学校や関連機関、ボランティアとの連携・協力を深め、協働を推進する。
広域的視点(他との連携)	府立図書館の協力を得るとともに、府内市町村立図書館と連携する。また、北河内7市では、7市すべての図書館で市民が本を借りることができる広域利用事業を行う。
場づくり	市民が図書に親しみ、市民や市民団体がボランティア活動を行う環境を整える。

施策名		図書館活動の充実						
部課等名	生涯学習推進部 図書館							
“かたのサイズ”をめざす像 (主要3つ)	趣味や生きがいをもち日々楽しく心が充実している 五感を大切にして、情緒豊かな時間を味わっている 自ら興味や問題意識をもってすすんで学んでいる							
現状と課題 (上記を踏まえ)	図書館(室)を利用することができる時間や場所は限られているが、より多くの市民が利用できるようインターネットや移動図書館等を活用して効率的、効果的な運営が必要							
施策の目的 (提供する価値)	市民の教養・趣味を育むとともに、知的好奇心に応える。 子どもの読書環境を整え、読書活動を推進する。							
施策の目標 (3年後の状態)	市民が、それぞれの興味や問題意識をもって、自ら学ぶ時間をもち、充実した生活を送っている。 子どもが本とふれあい、豊かな心を育てている。 子どもが本に親しむことができるよう、本が好きな市民や市民団体がさまざまな読書環境づくりを行っている。							
財源見込み	国の負担 (0 千円) 大阪府の負担 (0 千円)							
事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25 評価	アウトプット 指 標	H25 実績	H27 目標	H27 予算額 H26 予算額
1 資料の収集・提供	利用者の多様なニーズに応えることができるよう、資料を収集し、提供する。	直	選択	B	受入冊数 貸出冊数	12,221 冊 460,687 冊	12,500 冊 470,000 冊	15,500 千円 15,500 千円
2 図書館情報ネットワークシステムの充実	図書館情報ネットワークシステムを充実させる。	直	選択	B	Web予約冊数	10,129 冊	11,000 冊	7,808 千円 7,047 千円
3 図書館利用窓口の充実	図書館(室)・移動図書館車の効率的、効果的な運営に努める。	直	選択	B	利用者数 貸出冊数	125,599 人 460,687 冊	130,000 人 470,000 冊	9,652 千円 9,674 千円
4 子どもの読書活動推進	子どもと読書を結びつける機会を提供する。 学校図書館を支援する。	直	選択	B	おはなし会 おたのしみ会 ビデオ上映会 ブンブン劇場	46 回 4 回 2 回 2 回	46 回 4 回 2 回 2 回	3,370 千円 3,450 千円
5 ボランティアとの協働	ボランティア活動を支援し、連携・協働を図る。	直委	選択	B	対面朗読用資料の貸出冊数	80 冊	90 冊	0 円 0 円

出前講座



—平成 25 年度の主な実績—

- 資料の収集・提供
予約・リクエスト冊数 40,120 冊
- 子どもの読書活動推進
出前講座 18 回
ブックスタート 24 回
- ボランティアとの協働
ボランティアグループ共催事業 3 回
対面朗読用部屋の提供回数 51 回

